

愛媛大学
南予水産研究センター
South Ehime Fisheries Research Center

年 報

第 1 6 号 2 0 2 3 年度版

目 次

は じ め に	2
1. センター組織と研究概要	3
(1)組織の概要	3
(2)各部門の研究概要	4
(3)教職員一覧（2024 年度）	4
2. 研究者要覧（専任・兼任教員，客員教員，2024 年度）	7
3. 研究プロジェクト（専任教員，2023 年度）	12
4. 研究成果（2023 年度，兼任教員は水産関係の成果のみ記載）	14
5. 学会及び審議会・委員会等の活動（専任教員・2023 年度）	21
6. 教育活動（専任教員・2023 年度）	23
7. 地域・社会連携活動（2023 年度）	28
(1)シンポジウム，講座，講演会，展示などの開催（主催，共催，後援等）	28
(2)地域特別研究員との共同研究	32
(3)地域連携教育	33
(4)一般向け講演等	33
(5)一般向け雑誌記事等	34
(6)ボランティア活動，地域行事への参加等	34
8. 新聞記事・テレビ出演等（2023 年度）	35
9. センター視察・来訪者（2023 年度）	36
愛媛大学南予水産研究センター規則	39
愛媛大学南予水産研究センター運営委員会規程	42
愛媛大学南予水産研究センター運営委員名簿	44
愛媛大学南予水産研究センター参与会要項	45
愛媛大学南予水産研究センター参与会委員名簿	46
愛媛大学南予水産研究センター地域特別研究員要項	47
愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室設置要項	48
愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室室員名簿	49

は じ め に

2020-02-05 05185

2023 年度の愛媛大学南予水産研究センター年報の発行に際しまして、ご挨拶させていただきます。2023 年度は、2020 年から長く続いたコロナ感染症も影をひそめ、我々を取り巻く環境も平静を取り戻しました。しかしながら、世界的に見るとロシアによるウクライナへの軍事侵攻、イスラエルとハマスの軍事紛争など、世界的に不安や景気低迷の要因となる問題が長期続き、人々の生活に暗い影を落としています。また、国内では 2023 年元日に起こった能登半島地震や豪雨災害など気持ちが上向かない状況が続いてきております。そうした中で、円安による更なる飼料代や燃油の高騰、コロナ渦の終焉から上向くと予想された外食産業も影響を引きずる結果となり、宇和海の養殖にとって良い状況にはなっておりません。

こうした中ではありますが、南水研における教育では学生と顔を合わせて対面で授業することが当たり前となり、実習制限もなくなり以前のような日常を取り戻しました。一方、コロナ渦で実施された会議のオンライン化は継続され、移動、出張時間の浪費削減といった効率化に繋がり、苦難を経て改善された喜ばしい点もあったと受け止められます。また、研究、运营管理面では、2017 年度から 5 年間スマの完全養殖や赤潮の早期検出の研究を支えてきた文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」が終了を迎えたことで、南水研の研究予算の主軸を失いました。それを補うべく 2022 年度農林水産省「イノベーション創出研究強化推進事業：開発ステージ」に応募しましたが、惜しくも採択とならず、予算面で困窮しましたが、2023 年度は先の事業からリニューアルした農林水産省「オープンイノベーション研究・実用化推進事業」【開発研究ステージ（開発重要政策タイプ）】に無事採択され、研究や運営予算面で一息つける状況となりました。この制度は前身の制度よりも申請件数が増え、競争倍率も高くなって危惧されましたが、事業年数が 3 年から 5 年に伸び、しっかりと研究できる事業になっているのが特徴です。しかしながら、そこでは若手研究者の雇用費を出せるだけの予算はないことから、申請可能な大型予算を探索しておりました中で、2023 年度文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に愛媛大学と高知大学が連携して申請し、南水研も強化対象に位置付けられていました。しかし、2023 年度は採択ならず、2024 年度高知大学主体で愛媛大から南水研が参加するという形で再挑戦されています。そこでの南水研の取り組みは「Aquaculture-SATOUMI 構想」とし、環境を守りながら養殖生産力を高める SDGs に沿った取り組みとしています。それを踏まえて、人事面で愛媛大学大学院理工学研究科の日向博文教授に南水研兼任教員、弘前大学地域戦略研究所の西宮攻准教授に客員准教授となっただき、前出の構想を強化・推進していく体制の準備を進めています。

世界的に急速に進む気候変動に地域の水産業がどのように向き合っていくのか、また、我々が日本や世界にどう貢献していくのか、今後の大きなテーマとなります。愛媛大学は環境と調和した持続的な一次産業に寄与する研究を推進することを 1 つの柱とすることを既に表明しております。南水研も新たな研究に積極的に取り組み、地域の水産研究の立場からこの柱を支えていく必要があります。

2024 年 11 月

愛媛大学南予水産研究センター

センター長 松原 孝博

1. センター組織と研究概要

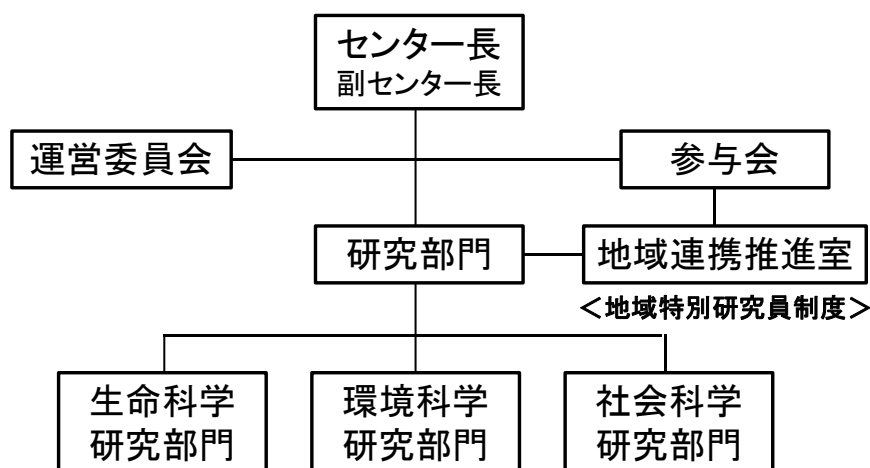
(1) 組織の概要

愛媛大学には、学部や研究科などにまたがる横系的な組織として令和5年度まで4つの機構（教育・学生支援機構，社会連携推進機構，先端研究・学術推進機構，国際連携推進機構）がありましたが，令和6年度から6つの機構（未来価値創造機構，教育・学生支援機構，研究・産学連携推進機構，地域協働推進機構，国際連携推進機構，デジタル情報人材育成機構）と2つの院（先端研究院，イノベーション創出院）に再編されました。これに伴い，南予水産研究センター（以下，南水研）は，これらのうちイノベーション創出院に属することとなりました。イノベーション創出院は，研究を発展させることによって産業及び地域産業にイノベーションを創出することを目的とする組織で，特定の地域産業（水産業，紙産業，農業，食品産業）に係わる4つの研究センター（南水研，紙産業イノベーションセンター，先端農業 R&D センター，食品健康機能研究センター）で構成されています。

南水研は，漁獲量の増大を主に目指した従来の「水産学」ではなく，最先端の生命科学による高度な生産技術の開発，環境科学による養殖漁場環境の保全，社会科学に基づく地域水産業振興システム作りといった，「生命」，「環境」，「地域社会」の三者に軸を置いた独自の「水産学」を目指しています。このため，研究部門は，

- (1) 生命科学の視点からのアプローチを目指す「生命科学研究部門」
 - (2) 環境科学の視点からのアプローチを目指す「環境科学研究部門」
 - (3) 社会科学の視点からのアプローチを行うとともに生命科学および環境科学研究と地域の橋渡しを目指す「社会科学研究部門」
- によって構成されています。

南水研の組織構成における大きな特徴は，参与会と地域連携推進室の存在です。参与会は，社会連携推進機構長等の学内委員ばかりでなく，地域の自治体や漁業関連団体の代表者等によって構成される組織で，センターの事業や運営に関して地域の意見や助言等を得ることを目的としています(p.45)。地域連携推進室は，これまでの地域連携・研究支援室を廃止して2018年度に設置された組織で(p.48)，地域のステークホルダーの方にも参加して頂いて南水研の地域連携活動を積極的に企画・推進していくことを目指しています。地域連携推進室は地域特別研究員制度(p.47)を運営しています。この制度は，自治体や漁協の職員の方を地域特別研究員として登録し，受け入れ教員とともに研究を進める制度で，2023年度は13名の方が登録されています。



(2) 各部門の研究概要

生命科学研究部門

水産養殖は、海洋に生息する生物資源を人間の手で制御し、利用する産業です。水産養殖の生産性を向上させるには、対象生物の生理・生態学的特性をよく理解し、それを効率的に利用する技術開発が欠かせません。当部門では、水産養殖生物を生命科学の視点から解析し、生命科学の技術を駆使して、水産養殖の生産性が飛躍的に向上する革新的な技術を開発することを目指しています。特に積極的に行っているのが、「新養殖種および養殖システムに関する研究」です。中でも南方のマグロ類であるスマの完全養殖と新しい育種技術を組み合わせて、これまでにない魚種による新養殖産業の創出と拡大・普及に力を注いでいます。

環境科学研究部門

愛媛県南予地域に接する宇和海は、リアス式の複雑な海岸地形を持ち、水深が深く黒潮からの潮の流入も起こり、魚介類の養殖に最適な環境です。さらに、サンゴを育む清浄な海は風光明媚で、足摺宇和海国立公園の海中公園にも指定されています。環境科学研究部門では、このすばらしい環境を守りながら持続的に水産業に利用していくための研究を進めています。現在、赤潮や魚病による被害を抑え、養殖産業へ貢献する「赤潮・魚病対策に関する研究」、地域の環境を活かした「資源・環境の保全と産業創出」に関する研究開発や教育に関する取り組みを進めています。

社会科学研究部門

社会科学研究部門は、社会学・文化人類学・経済学・経営学など社会科学的なアプローチにより、持続可能な発展を目指して、適正な水産振興と漁村活性化のシステムづくりを検討し実践する部門です。生命科学および環境科学といった学問と地域の橋渡しを念頭に置きながら、二つの柱となる実証的な研究を推進しています。一つの柱は「水産社会研究」で、社会構造論・生活ネットワーク論、産業文化論・地域文化論の観点から、水産業や漁村における社会構造や生活文化を探究し、その活性化策を提言しています。もう一つは「水産経営研究」で、経済理論（経営論・管理論）をもとに、水産業や漁村におけるマーケティングやマネジメントを検討し、その振興策を提案しています。

(3) 教職員一覧(2024 年度)

(※2024 年 10 月までに退任した教職員)

センター長： 松原 孝博

専任教員

松原 孝博 教 授	生命科学研究部門 (2023 年 4 月から特命教授)
後藤 理恵 教 授	生命科学研究部門 (2024 年 4 月から副センター長)
斎藤 大樹 准教授	生命科学研究部門
高木 基裕 教 授	環境科学研究部門 (副センター長・地域連携推進室長)
清水 園子 准教授	環境科学研究部門
竹内 久登 助 教	環境科学研究部門
*若林 良和 教 授	社会科学研究部門 (2024 年 3 月退職, 同 4 月から顧問)
竹ノ内徳人 教 授	社会科学研究部門

兼任教員

菅原 卓也	教 授	生命科学研究部門（農学研究科）
今村 健志	教 授	生命科学研究部門（医学系研究科）
高橋 学	教 授	生命科学研究部門（社会共創学部）
*松枝 直人	教 授	環境科学研究部門（農学研究科）（2024 年 4 月まで）
小林 真也	教 授	環境科学研究部門（理工学研究科）
森本 昭彦	教 授	環境科学研究部門（沿岸環境科学研究センター）
日向 博文	教 授	環境科学研究部門（理工学研究科）

客員教員

西永 豊光	客員教授	SEN KAI Food Service LLC
武岡 英隆	客員教授	
金尾 聡志	客員教授	
西宮 攻	客員准教授	弘前大学准教授

顧問

武岡 英隆	客員教授	
金尾 聡志	客員教授	
若林 良和	特命教授（Town&Gown 構想推進室長）	

客員研究員

*山木 勝	生命科学研究部門（愛媛県立宇和島水産高等学校講師）（2024 年 1 月より南予水産研究センター技術補佐員）
山下 浩史	生命科学研究部門（愛媛県水産課振興開発係長）
深田 陽久	生命科学研究部門（高知大学農学部准教授）
伊藤 克敏	環境科学研究部門（（国研）水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所主任研究員）
藤原 謙	環境科学研究部門（ウミトロン(株)代表取締役）
阿部 覚	社会科学部研究部門（(株)弥栄フーズ）
増崎 勝敏	社会科学部研究部門（立命館大学非常勤講師）

地域特別研究員

清水 陽介	生命科学研究部門（愛南町）
田中 俊也	生命科学研究部門（（株）神明水産）
大西 光	生命科学研究部門（大西水産（有））
吉原 勇作	環境科学研究部門（愛南町）
垣本 一真	環境科学研究部門（愛南漁業協同組合）
廣瀬 琢磨	環境科学研究部門（愛南町）
濱田 茂樹	環境科学研究部門（愛南漁業協同組合）
山本 次郎	環境科学研究部門（愛南漁業協同組合）
賀屋 啓太	環境科学研究部門（愛南町）

日野出賢二郎	環境科学研究部門（公益財団法人黒潮生物研究所）
藤本 吉信	社会科学研究部門（愛南町）
濱 哲也	社会科学研究部門（愛南町）
猪野啓士郎	社会科学研究部門（愛南町教育委員会）

事務・技術職員

筒井 隆	副課長	船越ステーション
橋岡 千寿	事務補佐員	船越ステーション
*馬場 千尋	事務補佐員	船越ステーション（2024 年 3 月まで）
中村 紗弥	事務補佐員	船越ステーション（2024 年 4 月から）
日野 真成	事務補佐員	西浦ステーション
竹田 夏美	研究補助員	船越ステーション
近澤すおみ	研究補助員	船越ステーション
大野祥司郎	技術員	西浦ステーション
上根 真帆	研究補助員	西浦ステーション（2024 年 4 月から）
清水 優子	研究補助員	西浦ステーション（2024 年 10 月から）
山木 勝	技術補佐員	西浦ステーション（2024 年 1 月から）

2. 研究者要覧(専任・兼任教員, 特定教員・研究員, 客員教員, 2024 年度)

専任教員

松原 孝博 Matsubara Takahiro

職 名：特命教授（生命科学研究部門）センター長

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本水産増殖学会 3. 日本比較生理生化学会

専門分野：1. 水産増養殖学 2. 魚類繁殖生理学

研究課題：1. 養殖用新魚種スマの種苗生産・養殖技術の開発研究 2. 地域有用水産生物の増養殖技術開発 3. 魚類の卵形成に関する生化学・分子生物学的研究 4. 魚類の受精における卵－精子相互作用に関する研究

後藤 理恵 Goto Rie

職 名：教授（生命科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

愛媛大学女性未来育成センター兼務センター員

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース（兼任）

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（兼任）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本動物学会

専門分野：魚類繁殖生理学

研究課題：1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究 2. マグロ類の新育種技術開発 3. 地域有用水産生物の増養殖技術開発 4. 魚類性統御技術開発 5. 魚類借腹生産技術開発

斎藤 大樹 Saito Taiju

職 名：准教授（生命科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース（兼任）

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（兼任）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本動物学会

専門分野：1. 魚類発生学 2. 魚類発生工学

研究課題：1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究 2. マグロ類の新育種技術開発 3. 地域有用水産生物の増養殖技術開発 4. 魚類発生工学技術開発

高木 基裕 Takagi Motohiro

職 名：教授（環境科学研究部門） 副センター長 地域連携推進室長

農学部 生物環境学科 環境保全学コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース（兼任）コース長

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（兼任）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本水産増殖学会 3. 日本魚類学会 4. 日本生物地理学会

専門分野：1. 水族保全学 2. 水産遺伝育種学

研究課題：野生・放流・養殖水産生物の保全・生態・増殖研究

清水 園子 Shimuzu Sonoko

職 名：准教授（環境科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース（兼任）

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（兼任）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本内分泌攪乱化学物質学会 3. 日本水産増殖学会 4. 日本魚病学会

専門分野：1. 養殖環境学 2. 魚病学 3. 魚類生理学

研究課題：1. 赤潮発生メカニズムに関する研究 2. 魚病発生メカニズムに関する研究 3. 赤潮・魚病対策に関する研究, 4. 養殖環境に関する研究

竹内 久登 Takeuchi Hisato

職 名：助教（環境科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース（兼任）

所属学会：1. 日本魚病学会 2. 日本水産学会

専門分野：1. 魚病学 2. 水産微生物学

研究課題：1. 魚病病原体の早期検出に関する研究 2. 魚病病原体の特性に関する研究 3. 赤潮の早期発見技術開発に関する研究

若林 良和 Wakabayashi Yoshikazu

職 名：教授（社会科学部研究部門）

理事・副学長（社会連携・人事マネジメント担当）

社会連携推進機構 機構長

社会共創学部産業イノベーション学科海洋生産科学コース（兼任）

農学部食料生産学科食料生産経営学コース（兼任）

大学院農学研究科食料生産学専攻水圏生産学コース（兼任）

大学院連合農学研究科生物資源生産学専攻食料経済学分野（兼任）

大学院人文社会科学部研究科産業システム創成専攻環境・資源マネジメントコース（兼任）

所属学会：1. 日本カツオ学会 2. 地域漁業学会 3. 漁業経済学会 4. 日本食育学会 5. 日本社会学会 6. 日本文化人類学会 7. 日本民俗学会

専門分野：1. 水産社会学 2. カツオ産業文化論 3. ぎょしょく教育論（食育実践論） 4. 社会調査論

研究課題：1. 水産地域の社会構造（漁村社会の構造的アプローチ）に関する研究
2. 水産地域の生活文化（漁村生活の文化的アプローチ）に関する研究
3. 水産コミュニティを基盤とした産業振興と地域活性化に関する研究
4. 地域性と歴史性からみたカツオの産業と文化に関する研究
5. ぎょしょく教育（総合的水産版食育）・食育のコンテンツとメソッドに関する研究
6. 水産業と漁村の多面的機能をもとにした地域水産振興システムの構築に関する研究
7. 定性分析に向けた質的調査としてのフィールドワークの技法と実践に関する研究

竹ノ内 徳人 Takenouchi Naruhito

職 名：教授（社会科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース・食料生産経営学コース（兼任）

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（兼任）

所属学会：1. 漁業経済学会 2. 地域漁業学会 3. 日本沿岸域学会 4. 日本協同組合学会

専門分野：1. 水産経済・経営学 2. 水産物マーケティング論 3. 水産物ブランド論

研究課題：1. 養殖業経営に関する研究 2. 水産業と漁村地域の活性化に関する研究 3. 水産物マーケティングに関する研究 4. 水産物のブランド化に関する研究

兼任教員

菅原 卓也 Sugahara Takuya

職 名：教授（農学研究科生命機能学専攻）

医農融合公衆衛生学環（兼任）

学長特別補佐

先端研究・学術推進機構 副機構長（学術企画室 室長）

農学研究科附属食品健康科学研究センター センター長

農学研究科附属柑橘産業イノベーションセンター六次産業化部門

学術支援センター センター長（兼任）

学術支援センター 遺伝子解析部門 部門長（併任）

地域協働センター西条（兼任）

地域協働センター中予（兼任）

南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

植物工場研究センター（兼任）

所属学会：1. 日本農芸化学会 2. 日本栄養・食糧学会 3. 日本食品科学工学会 4. 日本食品免疫学会 5. 日本アレルギー学会 6. 日本動物細胞工学会 7. The International Society for Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF)

専門分野：1. 食品機能学 2. 動物細胞工学

研究課題：1. 食品成分の保健機能評価と機能性食品開発に関する研究 2. 柑橘成分の抗アレルギー効果に関する研究 4. アカモクの保健機能に関する研究
研究 3. 香辛料の抗炎症効果に関する研究 4. 機能性食品開発

今村 健志 Imamura Takeshi

職 名：教授（医学研究科分子病態医学講座）

地域協働センター中予 センター長

先端医療創生センター 副センター長

プロテオサイエンスセンター（兼任）

南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

地域レジリエンス学環（専任）

所属学会：1. 日本癌学会(評議員) 2. 日本がん分子標的治療学会(理事) 3. 日本骨代謝学会(評議員, あり方委員会委員) 4. 日本整形外科学会(専門医) 5. 日本分子生物学会

6. 日本生化学会 7. 米国骨代謝学会 (ASBMR)

専門分野：1. バイオイメージング 2. TGF- β のシグナル伝達 3. がんと骨の生物学

研究課題：1. 生体深部観察のための 2 光子励起顕微鏡の開発 2. 広範囲生体高速イメージングのための光シート顕微鏡の開発 3. がんモデルマウスとがんモデルメダカの開発
4. TGF- β ファミリーのシグナル伝達の解析 5. がん転移の分子メカニズムの解析
6. 骨代謝における BMP シグナル伝達の解析

高橋 学 Takahashi Manabu

職 名：教授(社会共創学部産業イノベーション学科)
理工学研究科生産環境工学専攻機械工学コース(兼任)
南予水産研究センター生命科学研究部門(兼任)

所属学会：1. 日本機械学会 2. 日本材料学会 3. 日本複合材料学会 4. 中国・四国工学教育協会 5. 日本塑性加工学会

専門分野：1. 材料力学 2. 機械材料・材料加工

研究課題：1. 水産研究設備および養殖設備周辺技術の開発 2. デジタル技術を用いた水産業への応用

小林 真也 Kobayashi Shinya

職 名：教授(理工学研究科)
南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

所属学会：1. 情報処理学会 2. 電子情報通信学会 3. 電気学会 4. 日本工学教育協会 5. 日本感性工学会 6. 日本水産学会 7. IEEE 8. ACM

専門分野：1. 情報工学 2. 通信工学

研究課題：1. ICT(情報通信技術)の社会応用 2. 分散処理システムに関する研究

森本 昭彦 Morimoto Akihiko

職 名：教授(沿岸環境科学研究センター)
南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

所属学会：1. 日本海洋学会 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会

専門分野：1. 沿岸海洋学 2. 海洋物理学 3. 衛星海洋学

研究課題：1. 東シナ海・日本海の物質循環 2. 豊後水道の底入り潮 3. 東南アジアの沿岸域の海洋環境変動

日向 博文 Hinata Hirofumi

職 名：教授(理工学研究科)
沿岸環境科学研究センター環境動態解析部門(兼任)
南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

所属学会：1. 日本海洋学会 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会 3. 土木学会 4. 水産海洋学会

専門分野：1. 沿岸海洋学 2. 海岸工学

研究課題：1. 海洋マイクロプラスチック動態に関する研究 2. 海洋レーダーを用いた津波防災技術開発

客員教員

西永 豊光 Nishinaga Toyomitsu

職 名：客員教授（SEN KAI Food Service LLC 社長）

専門分野：1. 養殖魚の海外市場調査 2. 水産物のロジスティクス及び販売促進

武岡 英隆 Takeoka Hidetaka

職 名：客員教授，顧問

所属学会：1. 日本海洋学会 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会 3. 水産海洋学会

専門分野：1. 沿岸海洋学 2. 海洋物理学

研究課題：1. 沿岸海域の流動と物質輸送 2. 豊後水道の急潮と底入り潮 3. 養殖場の物質循環と環境保全

金尾 聡志 Kanao Satoshi

職 名：客員教授，顧問

所属学会：1. 地域漁業学会

専門分野：1. 漁業制度論 2. 産業イノベーション論（水産） 3. 水産経済・経営学

研究課題：1. スマ養殖経営収支モデルの作成 2. スマ養殖におけるビジネスモデルとプラットフォームに関する研究 3. 水産業と漁村地域の活性化に関する研究

西宮 攻 Nishimiya Osamu

職 名：客員准教授（弘前大学地域戦略研究所食料科学部門 准教授）

所属学会：1. 日本水産学会

専門分野：1. 繁殖生理学 2. 水産飼料開発

3. 研究プロジェクト(専任教員, 特定教員・研究員, 2023 年度)

松原孝博

【科 研 費】

1. 基盤研究 (B) 外来生殖細胞の宿主生殖腺への侵入・生着過程に関する研究. 250 千円 (分担)
2. 基盤研究 B: 外来生殖細胞の宿主生殖腺への侵入・生着過程に関する研究. 令和 5-9 年度, 研究費 400 千円(代表).

【受託研究】

1. 愛媛県伊予の媛貴海養殖安定化技術開発. 親魚管理および出荷技術開発. 1,000 千円 (分担)
2. 農林水産省「オープンイノベーション研究・実用化推進事業」【開発研究ステージ (開発重要政策タイプ)】22,600 千円 (分担) .

後藤理恵

【科 研 費】

1. 基盤研究 B: 紫外線照射による海産魚分離浮性卵の不妊化誘導. 令和 3~6 年度, 研究費 300 千円(分担).
2. 基盤研究 B: 外来生殖細胞の宿主生殖腺への侵入・生着過程に関する研究. 令和 5-9 年度, 研究費 400 千円(代表).

【受託研究】

1. 農林水産省事業: 令和 5 年度オープンイノベーション研究・実用化推進事業「開発研究ステージ (開発重要政策タイプ)」, 高品質養殖魚の育種・完全養殖サイクルの構築と出荷社会実装, R5-R9 年度, 研究費 2,260 千円 (代表)
2. 愛媛県: 令和 5 年度媛スマ養殖生産拡大技術開発試験, 親魚管理, 1,000 千円 (代表)

【その他】

1. 令和 5 年度愛媛大学地域協働教育研究支援事業: 自立的地域人材育成システムの構築に向けて, 研究費 360 千円 (代表) .

斎藤大樹

【科 研 費】

1. 基盤研究 B: 紫外線照射による海産魚分離浮性卵の不妊化誘導. 令和 3-今年 6 度, 研究費 2300 千円(代表).
2. 基盤研究 B: 外来生殖細胞の宿主生殖腺への侵入・生着過程に関する研究. 令和 5-今年 9 度, 研究費 200 千円(分担).

【受託研究】

1. 愛南町受託研究: 愛南町における新規養殖魚開発に係る研究開発. 令和 5 年度, 1540 千円 (代表)
2. 愛媛県デジタル加速化プロジェクト実装事業: 愛媛県愛南町にて, スマート牡蠣養殖システムの展開における当地の牡蠣生育データと海域の環境データの相関性の分析調査. 令和 5 年度, 254 千円 (分担)

高木基裕

【科研費】

1. 基盤研究 C：全国主要漁場における養殖マダイ逸出の分子遺伝学的調査. 100 千円（分担）
2. 基盤研究 C：瀬戸内海の藻場生態系を維持する流れ藻の役割. 100 千円（分担）

【受託研究】

1. 愛南町 愛南町沿岸海域の漁場環境改善にかかる研究開発. 330 千円（代表）
2. 愛南町 新規養殖魚等の研究開発. 500 千円（分担）
3. 宇和島市 宇和海特殊海中資源調査 100 千円（代表）

【学内事業】

1. 研究活性化事業：行動の多様性を指標とした放流用・養殖用マダイの種苗性評価に関する研究. 200 千円（代表）
2. 産学連携推進事業：動物性タンパク飼料の削減にむけた植食性魚種「メジナ」の新規養殖魚としての可能性評価. 800 千円（代表）

清水園子

【科研費等】

1. 基盤研究 C：層状複水酸化物を用いた赤潮プランクトン除去に関する研究. 令和 4 年度～6 年度, 550 千円（分担）

【受託研究】

1. 愛南町受託研究, 令和 5 年度「愛南町沿岸海域の環境調査および赤潮・魚病早期検出とモニタリングに係る研究開発」, 2,350 千円（代表）
2. 水産庁委託事業 令和 5 年度豊かな漁場環境推進事業のうち赤潮等による漁業被害対策技術の開発・実証・高度化「（1）有害プランクトンの出現動態監視及び予察技術開発並びに赤潮の発生段階に応じた一連の対策（行動計画）の検討・策定」. 900 千円（分担）.

【その他】

1. 令和 5 年度社会共創学部学部長裁量経費等によるプロジェクト：環境 DNA 技術を用いた養殖漁場の魚類白点病の発生リスク評価と防除技術の開発. 研究費 700 千円（代表）.

竹内久登

【科研費】

1. 若手研究：環境水を用いた非侵襲的な魚病検査手法の確立, 令和 3-5 年度, 1,300 千円（代表）

若林良和

【科 研 費】

1. カツオを題材とした水産版食育の実践的研究 ―「ぎょしょく」の体系化とツール開発―, 令和元年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）・（一般）, 960 千円（2018～2022 年度[コロナ禍による期間延長]：総額 4,160 千円）, （代表）

4. 研究成果(2023 年度)

(兼任教員は水産関係の成果のみ記載)

生命科学研究部門

【報告書など】

1. 令和 5 年度愛媛大学地域協働教育研究支援事業報告書：自立的地域人材育成システムの構築に向けて. 2023 年 4 月.
2. 農林水産省事業 令和 5 年度オープンイノベーション研究・実用化推進事業「開発研究ステージ（開発重要政策タイプ）」, 高品質養殖魚の育種・完全養殖サイクルの構築と出荷社会実装, 令和 5 年度報告書, 2024 年 3 月

【学会発表, 各種講演・報告など】

1. 後藤理恵. Introduction to Kawakawa: The Prospects of Eastern Little Tuna in Aquaculture 小型マグロ類スマ養殖の紹介と展望. 「「知」の集積と活用場 産学官連携協議会 事務局運営業務」の一環として行うニュージーランド大使館共催イベント. 2023 年 12 月 8 日, ニュージーランド大使館.
2. 後藤理恵. 地域協働による水産研究の推進 スマの完全養殖と高品質化. 第 14 回愛媛大学ホームカミングデー. 2023 年 11 月 11 日, 愛媛大学南加記念ホール.
3. 斎藤大樹, Dipak Pandey, Milos Havelka, 遠藤充, 近藤総一郎, 大塚淳希, 石川豪大, 後藤理恵, 松原孝博. 多変量データセット構築によるスマ各種形質の評価. 令和 5 年度日本水産学会中国・四国支部例会, 福山大学 (広島県), 2023 年 12 月 16 日.
4. 大塚淳希, 松原孝博, 後藤理恵, 斎藤大樹. 養殖マダイの味に関する研究. 令和 5 年度日本水産学会中国・四国支部例会, 福山大学 (広島県), 2023 年 12 月 16 日.
5. 板橋克弥, 大塚淳希, 森本寛大, 松原孝博, 斎藤大樹, 後藤理恵. 画像情報を用いたスマの生理状態把握の試み. 令和 5 年度日本水産学会中国・四国支部例会, 福山大学 (広島県), 2023 年 12 月 16 日.
6. 後藤理恵, 大塚淳希, 松原孝博, 斎藤大樹. マダイ不妊化魚の作出および身質解析, 令和 6 年度日本水産学会大会春季大会, 2024 年 3 月 30 日.
7. 斎藤大樹, 近藤総一郎, 大塚淳希, 松原孝博, 後藤理恵. 多変量データによるスマの品質解析の試み. 令和 6 年度日本水産学会大会春季大会, 2024 年 3 月 29 日.
8. 斎藤大樹, 近藤総一郎, 大塚淳希, 松原孝博, 後藤理恵. スマ筋肉呈味の定量的解析. 令和 6 年度日本水産学会大会春季大会, 2024 年 3 月 29 日.
9. 西宮攻, 中島兼太郎, 斎藤大樹, 後藤理恵, 松原孝博. スマ稚魚用飼料の開発. 令和 6 年度日本水産学会大会春季大会, 2024 年 3 月 30 日.
10. Taiju SAITO, Optimized foods "Application of Surrogate Broodstock Technology in Sturgeon Species" (招待講演), UC Davis, USA, 2023 年 3 月 22 日.
11. 斎藤大樹, 紫外線照射による魚類胚の不妊化 (招待講演), 照明学会 光源・照明システム分科会公開研究会「光放射の新しい応用」, 東京工芸大学 (東京都), 2024 年 3 月 5 日.
12. 斎藤大樹, 近藤総一郎, 大塚純希, 松原孝博, 後藤理恵. 多変量データセット構築によるスマ各種形質の評価. 日本水産学会. 東京海洋大学 (東京都). 2024 年 3 月 28 日.

環境科学研究部門

【学協会誌】

1. 高木基裕・河田直樹・山田裕貴・河口洋一．徳島県那賀川のダム湖群に生息するアユの遺伝的多様性と由来．水産増殖 71, 87-98 2023 年 6 月
2. 高木基裕・田村裕子・田村菖悟．愛媛県宇和島市岩松川下流域で得られたアカテガニ．南予生物フィールドノート, 23017, 2023 年 11 月
3. 高木基裕・田村裕子・田村菖悟．愛媛県宇和島市岩松川下流域で得られたハマガニ．南予生物フィールドノート, 23018, 2023 年 11 月
4. 高木基裕．愛媛県愛南町で得られたベンケイガニ．南予生物フィールドノート, 23019, 2023 年 11 月
5. Hisato Takeuchi, Hidemasa Kawakami, Nobuhiro Mano, Hiroki Yamanaka, Sonoko Shimizu:
Environmental DNA-based quantification of *Edwardsiella* bacteria and fish-derived materials in rearing water of infected ayu *Plecoglossus altivelis* and red sea bream *Pagrus major*, Fisheries Science, 90 (1), 93-103 (2023).

【報告書など】

1. 愛南町 愛南町沿岸海域の漁場環境改善にかかる研究開発．令和 4 年度報告書
2. 愛南町 新規養殖魚等の研究開発．令和 4 年度報告書
3. 宇和島市 宇和海特殊海中資源調査．令和 4 年度報告書
4. 研究活性化事業：行動の多様性を指標とした放流用・養殖用マダイの種苗性評価に関する研究．令和 4 年度報告書
5. 産学連携推進事業：動物性タンパク飼料の削減にむけた植食性魚種「メジナ」の新規養殖魚としての可能性評価．令和 4 年度報告書
6. 清水園子，愛南町受託研究 令和 5 年度「愛南町沿岸海域の環境調査および赤潮・魚病早期検出とモニタリングに係る研究開発」報告書，2024 年 3 月
7. 令和 5 年度豊かな漁場環境推進事業のうち赤潮等による漁業被害対策技術の開発・実証・高度化「(1) 有害プランクトンの出現動態監視及び予察技術開発並びに赤潮の発生段階に応じた一連の対策（行動計画）の検討・策定」．報告書 2024 年 3 月

【学会発表，各種講演・報告など】

1. 大西基文・竹内久登・高木基裕．メジナの新規養殖魚としての可能性評価．令和 6 年度日本水産学会春季大会, 3 月，講演要旨集: 604. (2024)
2. 小山絵風・野口未来・竹内久登・清水園子：感染死亡魚を介したマダイエドワジエラ症の蔓延に関する研究．令和 5 年度日本水産学会秋季大会, 2023 年 9 月
3. 野本琉斗・竹内久登・清水園子：愛媛県御荘湾における貝毒原因藻類 *Alexandrium* 属の分布・動態に関する研究．令和 5 年度日本水産学会秋季大会, 2023 年 9 月
4. 三谷宗将・竹内久登・清水園子：赤潮殺藻細菌として分離された *Kordia* 属細菌の性状．令和 5 年度日本水産学会秋季大会, 2023 年 9 月
5. 清水園子，愛媛県漁業協同組合赤潮研修会報告．愛媛県漁協漁業研修センター，宇和島市，2023 年 6 月 27 日
6. 清水園子，愛南漁業協同組合魚類養殖協議会総会話題提供．愛南町海域における赤潮・魚病モ

ニタリング調査. 愛媛県愛南漁業協同組合深浦本所, 愛南町, 2023 年 6 月 30 日

7. 竹内久登, 清水園子: マダイエドワジエラ症原因菌の海水中動態に関する研究. 令和 6 年度日本水産学会春季大会, 2024 年 3 月 30 日, 東京海洋大学品川キャンパス

社会科学研究部門

【著 書】

1. 若林良和: 農林水産業の多面的機能 水産業の視点から, 農林水産業体験活動と食育実践. 日本食育学会編 (編集委員) 食育の百科事典. 102-103, 136-137, 2023 年 9 月.
2. 竹ノ内徳人. 第 5 章水産物のマーケティング. 水産流通 (高等学校用教科書). 157-185. 文部科学省. 2024 年 2 月.
3. 竹ノ内徳人. 陸上養殖生産物の販売戦略. 陸上養殖の現在と未来. 196-208. 情報機構. 2024 年 2 月.
4. 竹ノ内徳人. 沿岸域におけるプレジャーボート・マリーナの利用と管理. 海のレジャー的利用と管理ー日本と中国の実践ー. 65-86. 東海教育研究所. 2024 年 3 月.

【その他の雑誌】

1. 若林良和: 「秋の魚」を身近に感じて, おいしく食べましょう!. たのしくたべようニュース第 468 号 (少年写真新聞): 1, 2023 年 9.
2. 若林良和: 特別連載 “大学人国記” 第 49 回 愛媛大学の巻① ◆若林良和理事・副学長 (社会連携・人事マネジメント担当) ◆. 文教ニュース第 2773 号: 101-102. 2023 年 10 月.
3. 若林良和: 宮古・池間島のカツオ産業文化誌 (5)ー地域モノグラフの代表的な事例を通した総括的な検討ー. 宮古島市総合博物館紀要第 28 号: 5-14. 2024 年 3 月.
4. 若林良和: 「カツオの狩人」の世界に迫る船上めし. 月刊みんぱく 84 (4): 20. 2024 年 3 月.

【報告書など】

1. 若林良和: 産学連携で地域経済をパワーアップ! 第 115 回 企業, 地域と連携して更なる発展を! (1)ー愛媛大学社会連携推進機構における現在の活動状況についてー. 松山商工会議所所報 No.771: 11. 2023 年 4 月.
2. 若林良和: 産学連携で地域経済をパワーアップ! 第 116 回 企業, 地域と連携して更なる発展を! (3)ー愛媛大学社会連携推進機構における今後の活動と展望についてー. 松山商工会議所所報 No.771: 11. 2023 年 5 月.
3. 若林良和: 第 65 回大会の開催について 愛媛大会の開催にあたって. 地域漁業学会会報 No.121: 1-2. 2023 年 7 月.
4. 若林良和: 地域×産業イノベーションによる持続可能な共創社会の実現を目指して ー地域に密着した, 研究と教育の更なる拡充の期待ー. 愛媛大学紙産業イノベーションセンター開設 10 周年記念誌: 11. 2023 年 11 月.
5. 若林良和: 令和 5 年度愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム (東予) <令和 4 年度補正予算 文部科学省成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業> 成果報告書. 愛媛大学社会連携推進機構. 2024 年 3 月.
6. 竹ノ内徳人. 伊方町水産業振興計画に関する報告書. 令和 5 年度伊方町水産業振興計画策定に向けた基本調査研究. 愛媛県伊方町. 1-28. 2024 年 3 月.

【学会発表, 各種講演・報告など】

1. 若林良和: 日本のカツオ文化とカツオ資源について ー地域と生活の視点からカツオ文化とカツオ資源を考える!ー. 2023 年度 JICA (国際協力機構) 青年研修「資源管理型漁業」コースセ

- ミナー，愛媛大学 E.U. Regional Commons, 2023 年 9 月 26 日。
2. 若林良和：愛媛大学のビジョン・戦略・取組について．令和 5 年度愛媛大学地域創生イノベーション育成プログラム（南予），愛媛大学地域協働センター南予，2023 年 8 月 19 日．
 3. 若林良和：愛媛大学のビジョン・戦略・取組について．令和 5 年度愛媛大学地域創生イノベーション育成プログラム（東予），愛媛大学地域協働センター西条，2021 年 9 月 23 日．
 4. 若林良和：カツオ学（カツオ検定）へのいざない．第 10 回枕崎カツオマイスター検定，南薩地域地場産業振興センター（鹿児島県枕崎市），2023 年 11 月 18 日．
 5. 若林良和：「魚飾」でカツオを探る（講義①）．第 10 回枕崎カツオマイスター検定，南薩地域地場産業振興センター（鹿児島県枕崎市），2023 年 11 月 19 日．
 6. 若林良和：基調講演 地域×産業イノベーションによる持続可能な共創社会の実現を目指して～地域と「共進」する愛媛大学の取組～ 令和 5 年度三重大学地域拠点サテライトシンポジウム「未来を拓く地域共創大学の挑戦」．三重大学三翠ホール，2023 年 12 月 1 日．
 7. 若林良和：愛媛大学における社会連携活動のこれまでとこれから 愛媛大学と愛媛経済同友会との連携協定締結 10 周年記念事業講演会．ANA クラウンプラザホテル松山，2024 年 2 月 29 日．
 8. 若林良和：カツオとマチとヒトと ー大学教員 34 年，愛大教員 23 年を振り返ってー 令和 5 年度退職記念講演会．愛媛大学農学部大講義室，2024 年 3 月 15 日．
 3. 若林良和：愛媛大学のリカレント教育について ～地域×産業イノベーションによる持続可能な共創社会の実現に向けて～ 大学等を活用したリカレント教育 EXPO2024（文部科学省成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業）．御茶ノ水ソラシティ（東京都千代田区），2024 年 3 月 5 日．
 10. 若林良和：愛媛大学地域協働教育研究支援事業（令和 4 年度）成果報告会 開会挨拶．愛媛大学愛媛大学総合情報メディアセンターメディアホール，2023 年 6 月 19 日．
 11. 若林良和：第 1 回創立記念 地域レジリエンス学環シンポジウム「防災×まちづくり×多様性・・・+デジタル～必ず生き残る人づくり必ず生き続けるまちづくり 閉会挨拶．愛媛大学南加記念ホール，2023 年 6 月 23 日．
 12. 若林良和：愛媛大学食品健康機能研究センター開設記念式典 閉会挨拶，愛媛大学南加記念ホール，2023 年 7 月 25 日．
 13. 若林良和：愛媛大学工学部エンジニアリングモジュール 2.0 講演会 開会挨拶，愛媛大学南加記念ホール，2023 年 7 月 27 日．
 14. 若林良和：愛媛大学文系研究センター合同シンポジウム「弘法大師信仰と地域社会」 開会挨拶，愛媛大学南加記念ホール，2023 年 9 月 24 日．
 15. 若林良和：愛媛大学地域専門人材育成・リカレント教育支援センターシンポジウム 2023 ～地域ニーズを踏まえた愛媛大学におけるリカレント教育の展開～ 開会挨拶．愛媛大学地域専門人材育成・リカレント教育支援センター（リモート），2023 年 9 月 28 日．
 16. 若林良和：愛媛大学食品健康機能研究センター第 1 回公開シンポジウム 閉会挨拶，愛媛大学南加記念ホール，2023 年 10 月 16 日．
 17. 若林良和：愛媛大学社会共創フォーラム 2023 開会挨拶．愛媛大学グリーンホール，2023 年 10 月 19 日．
 18. 若林良和：愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター公開講演会・シンポジウム「弘法大師生誕 1250 年 古代・中世の四国遍路 開会挨拶．愛媛大学南加記念ホール&リモート，2023 年 10 月 28 日．

19. 若林良和：愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センター 5周年スタートアップシンポジウム 開
会挨拶。愛媛大学南加記念ホール&リモート，2023年11月22日。
20. 若林良和：愛媛大学紙産業イノベーションセンター開設 10周年記念シンポジウム「新たな技
術や新製品を愛媛から全国へ！そして，世界へ！発信する」 開会挨拶。ホテルグランフォー
レ，2023年11月28日。
21. 若林良和：令和5年度愛媛大学社会連携推進機構協力会特別講演会「愛媛大学食品健康機能研
究センターの開設と新たな展開」 閉会挨拶。ANA クラウンプラザホテル松山，2023年11月
30日。
22. 若林良和：愛媛大学俳句・書文化研究センターシンポジウム「伊予の俳諧レガシー」 開会挨
拶。愛媛大学南加記念ホール&リモート，2023年12月9日。
23. 若林良和：人口減少社会を生きる！フォーラム2023 開会挨拶。愛媛大学 E.U. Regional
Commons，2023年12月9日。
24. 若林良和：愛媛大学農学部・大学院農学研究科×農林水産省中国四国農政局 食品ロス削減を
考えるシンポジウム 開会挨拶。愛媛大学農学部・大学院農学研究科&リモート，2023年12月
16日。
25. 若林良和：愛媛大学農学部・大学院農学研究科×農林水産省中国四国農政局 第3回愛媛の食
農の未来とイノベーションシンポジウム2023 開会挨拶。愛媛大学農学部・大学院農学研究科&
リモート，2023年12月16日。
26. 若林良和：令和5年度愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム（南予）閉講式挨拶。愛
媛大学地域協働センター南予，2024年2月3日。
27. 若林良和：令和5年度愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム（東予）閉講式挨拶。愛
媛大学地域協働センター西条，2024年2月17日。
28. 若林良和：愛媛大学食品健康機能研究センター 第1回産学連携交流会 開会挨拶。愛媛大学
メディアホール，2024年3月11日。
29. 若林良和：社会連携推進機構 閉構記念イベント～感謝のつどい～ 開会挨拶。愛媛大学社会
連携推進機構&SALVATORE CUOMO，2024年3月22日。
30. 松村俊吾・竹ノ内徳人。愛媛県伊方町における沿岸漁業の共同体基盤型管理。2023年度日本沿
岸域学会研究討論会。新潟大学（オンライン）。2023年7月22日。
31. 竹ノ内徳人。第一報告愛媛県における水産業振興の現状と展望に関するコメント。地域漁業学
会第65回大会シンポジウム。愛媛大学。2023年11月3日。
32. 松村俊吾・竹ノ内徳人。愛媛県伊方町における水産業振興に向けたロジックモデルの構築。地
域漁業学会第65回大会個別報告。愛媛大学。2023年11月4日。
33. Fitriana Dina Rizkina・Hiroki Kasamatsu・Naruhito Takenouchi。Mapping Fisheries Value Chains to
Facilitate The Sustainability Assessment using the SCOR Model。令和5年度農学研究科国際ワークシ
ョップ。愛媛大学農学部。2023年12月6日。
34. 竹ノ内徳人。水産業を核とした地域振興。愛媛大学水産人材育成講座－応用編・水産業と地域
振興－。愛媛大学南予水産研究センター。2023年9月16日。
35. 竹ノ内徳人。水産物の流通・販売。愛媛大学水産人材育成講座－基礎編・水産学概論－。愛媛
大学南予水産研究センター。2023年12月16日。
36. 竹ノ内徳人。水産経済・経営－水産白書より－。愛媛大学水産人材育成講座－基礎編・水産学
概論－。愛媛大学南予水産研究センター。2024年2月17日。

37. 竹ノ内徳人. 海からの恵みが私たちの食卓に届くまで：第 11 回水産物はどうやって食卓に届いている？. 子どものための SDGs 教室オンラインセミナー. 株式会社 SPC. 松山市. 2024 年 2 月 25 日.
38. 竹ノ内徳人. 海からの恵みが私たちの食卓に届くまで：第 12 回水産物はどうなっている？. 子どものための SDGs 教室オンラインセミナー. 株式会社 SPC. 松山市. 2024 年 3 月 24 日.

兼任教員（水産関係の成果のみ記載）

小林真也

【学会発表・各種講演・報告など】

1. 山磨 虎多郎, 遠藤 慶一, 黒田 久泰, 小林 真也: "遊魚の三次元位置追跡における検出漏れ発生時の遊泳ベクトル補間手法の提案," 情報システムと社会環境研究会 第 165 回研究発表会, 北海道, 8 月 28-29 日, 2023.
2. ディアス 海斗, 遠藤 慶一, 黒田 久泰, 小林 真也: "アンサンブル学習と検出矩形の除去・集約による魚影検出の精度向上," 情報処理学会第 86 回全国大会, 神奈川, 3 月 15-17 日, 2024.
3. DX 推進の出発点は実社会にある, 農業情報学会 2023 年度年次大会, 福岡市, 2023 年 5 月 27 日
4. 水産業のスマート化, 新居浜市スマートシティ協議会, 新居浜, 2024 年 3 月 27 日

森本昭彦

【学協会誌】

1. Yuenyong, S., Buranapratheprat, A., Thaipichitburapa, P., Gunbua, V., Intacharoen, P., Morimoto, A. (2023): Fluxes of dissolved nutrients and total suspended solids from the Bang Pakong River mouth into the upper Gulf of Thailand. *Journal of Fisheries and Environment*, 47 (3), 68-83.
2. Leng, Q., Guo, X., Zhu, J., Morimoto, A. (2023): Contribution of open ocean to the nutrient and phytoplankton inventory in a semi-enclosed coastal sea. *Biogeosciences*, 20, 4323-4338.
3. Cao, A., Wang, S., Morimoto, A., Takikawa, T., Guo, X. (2023): Model content of typhoon-induced near-inertial waves around the East China Sea. *Continental Shelf Research*, 264, 105055.
4. Mino, Y., Sukigara, C., Watanabe, A., Morimoto, A., Uchiyama-Matsumoto, K., Ishimaru, T. (2023): Rapid growth of surface water pCO₂ revealed by settling particulate organic matter carbon isotope time series during 2001-2009 in Sagami Bay, Japan. *J. Oceanogr.*, 79, 317-331. <https://doi.org/10.1007/s10872-023-00688-3>.
5. Soeyanto, E., Morimoto, A., Hayami, Y., Sudaryanto, A. (2023): Seasonal spreading and age of Citarum River water in the Jakarta Bay. *IOP Conf. Series: Earth and Environmental Science*, 1137 (2023) 012009.
6. 脇田和美・杉野弘明・鈴木崇史・森本昭彦 (2023): 兵庫県・香川県住民が描く瀬戸内海のイメージと望ましい姿 ～目指すべき「豊かな海」の具体化に向けて～. *沿岸域学会誌*, 35(4), 55-67.
7. Morimoto, A., Ito, M., Takikawa, T. (2023): Year-to-year variations in the third branch of the Tsushima Warm Current in the Japan Sea. *Coastal altimetry: case studies from Asian shelf seas*, 215-230. Elsevier, ed. by Idris, N. H. and Vignudelli, S.

【学会発表】

1. Morimoto, A (2023): Numerical model development for research on eutrophication. Joint Seminar on Collaborative Research and Education Project in Southeast Asia for Sustainable Use of Marine Ecosystem, Chiba, March.
2. Morimoto, A., Tokuda, S., Leng, Q., Guo, X (2023): Nutrient supply associated with tropical cyclone passage in the continental shelf of the East China Sea. Japan Geoscience Union Meeting 2023, Chiba, May.
3. Tong-u-dom, S., Morimoto, A., Leng, Q., Guo, X., Yoshie, N., Tada, K., Ichimi, K., Yamaguchi, H., Nakakuni, M. (2023): Roles of riverine nutrients from different sources in the Harima-Nada and their contributions to primary production. Japan Geoscience Union Meeting 2023, Chiba, May.

日向博文

【学協会誌】

1. Kuwae, M., Finney, B. P., Shi, Z., Sakaguchi, A., Tsugeki, N., Omori, T., ... & Saito, Y. (2023). Beppu Bay, Japan, as a candidate Global boundary Stratotype Section and Point for the Anthropocene series. *The Anthropocene Review*, 10 (1), 49-86. 40 人中 10 番目

【学会発表・各種講演・報告など】

1. Learning from history toward a better future: Bottom sediments in a hypoxic basin as a recording medium of the microplastic pollution history (招待講演). Hirofumi Hinata. MRM2023/IUMRS-ICA2023 2023 年 12 月 13 日
2. Bottom sediments in a hypoxic basin as a recording medium of the microplastic pollution history (招待講演). Hirofumi Hinata. Japan-Thailand Bilateral Symposium of Advanced Materials for Sustainable Society 2023 年 10 月 10 日
3. 別府湾海底に堆積するマイクロプラスチック量 - 75 年間の変遷 - (招待講演). 日向博文. 瀬戸内海研究フォーラム in 山口 2023 年 8 月 27 日

5. 学会及び審議会・委員会等の活動(専任教員・2023 年度)

松原孝博

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 浜の活力再生プラン 愛南地区地域水産業再生委員会委員
2. 愛南町ぎょしょく教育普及委員
3. 環境省 化学物質の内分泌かく乱作用に係る試験法の確立等に関する検討委員
4. 愛南漁業協同組合 非常勤監事

後藤理恵

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 愛南町ぎょしょく教育普及促進協議会委員
2. 水産政策審議会企画部会特別委員
3. 農業資材審議会飼料分科会飼料安全部会委員
4. 日本学術振興会特別研究員審査委員
5. 清心女子中高等学校 SSH 運営委員
6. 愛南町海業推進会議運営員会委員
7. 海業中間支援法人設立準備委員会委員

高木基裕

【学協会役職(理事・委員等)】

1. 水産育種研究会幹事
2. 日本水産学会水産増殖懇話会委員
3. 日本水産増殖学会評議員
4. 水生動物編集委員

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛県科学技術振興会議農林水産評価専門部会委員
2. 愛媛海区漁場調整委員会委員
3. 愛媛県アコヤガイへい死対策協議会専門部会委
4. えひめの生物多様性保全推進委員会野生動植物専門部会員
5. 松山市希少動植物保護対策専門委員
6. 愛媛県立南宇和高等学校学校評議員

清水園子

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 2023 年度 農林水産省水産動物防疫体制整備モデル事業 愛南町養殖魚類防疫体制整備協議会
プログラム作成委員
2. 薬事審議会動物医薬品等部会水産用医薬品調査会委員

若林良和

【学協会役職（理事・委員等）】

1. 日本カツオ学会 顧問
2. 地域漁業学会 理事
3. 漁業経済学会 理事
4. 日本食育学会 理事
5. 日本食育学会学会誌編集委員会 委員

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 水産庁民間団体補助金交付候補者選定審査委員会 委員
2. 一般社団法人国立大学協会・一般社団法人日本経済団体連合会「採用と大学教育の未来に関する産学協議会・産学連携推進分科会 委員
3. Peace & Science Innovation Ecosystem・プラットフォーム推進会議 委員
4. 一般財団法人四国産業・技術振興センター四国産業技術大賞選考審査会 選考審査員
5. 公益財団法人えひめ産業振興財団 理事
6. 公益財団法人えひめ地域活力創造センター 評議員
7. 一般社団法人えひめベンチャー支援機構 理事
8. 愛媛県人口問題総合戦略推進会議 委員
9. 愛媛県松山圏域活性化戦略会議 委員
10. 愛媛県愛南町ぎょしょく普及推進協議会 委員
11. 愛媛県愛南町食育推進協議会 委員
12. 愛媛県愛南町食育協働部会 副会長
13. 鹿児島県枕崎市枕崎カツオマイスター検定推進協議会 委員
14. 鹿児島県枕崎市枕崎カツオマイスター検定委員会 委員長
15. 鹿児島県指宿市山川水産加工業協同組合女性部 顧問
16. 株式会社テレビ愛媛番組審議会 委員

竹ノ内徳人

【学協会役職（理事・委員等）】

1. 漁業経済学会理事
2. 地域漁業学会理事・副会長ならびに学会誌編集委員会委員長

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛県・愛媛海区漁業調整委員会・委員
2. 河原学園教務委員会・委員
3. 徳島県・県有種苗生産施設有効活用実践事業プロポーザル審査委員会・委員長
4. 松山市公設水産地方卸売市場運営審議会 委員

6. 教育活動(専任教員・2023 年度)

松原孝博

【担当授業科目(本学関係)】

1. 前学期, 水産生物環境学(分担), 社会共創学部
2. 前学期, 養殖学(分担), 社会共創学部
3. 前学期, 水産生物学, 社会共創学部
4. 前学期, 海洋生産科学Ⅰ(分担), 社会共創学部
5. 前学期, 海洋生産科学セミナーⅠ(分担), 社会共創学部
6. 前学期, 水圏生産学特論(分担), 社会共創学部
7. 後学期, 産業イノベーションセミナーⅠ(主担), 社会共創学部
8. 後学期, 海洋生産科学概論(主担), 社会共創学部
9. 前学期集中, 社会共創演習Ⅰ(分担), 社会共創学部
10. 集中, インターンシップ実践(分担), 社会共創学部
11. 集中, 次世代水産イノベーション論(分担), 社会共創学部

後藤理恵

【指導学生】

社会共創学部学生(4年生): 2名, (3年生): 3名

大学院農学研究科・修士課程

(主指導): 1名

(副指導): 2名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文: 3件

- ・魚類不妊化系統作出に向けた基礎的研究
- ・マダイ借腹生産に向けた技術開発

修士論文: 1件

- ・画像情報を用いたスマの生理状態把握の試み

【担当授業科目(本学関係)】

1. 前学期, 海洋生産科学Ⅰ(主担), 社会共創学部
2. 前学期, 海洋生産科学Ⅱ(主担), 社会共創学部
3. 前学期, 海洋生産科学セミナーⅠ(主担), 社会共創学部
4. 前学期, 海洋生産科学セミナーⅡ(主担), 社会共創学部
5. 前学期, 水圏生産学特論(分担), 社会共創学部
6. 後学期, 水族生理学(主担), 社会共創学部
7. 後学期, 産業イノベーションセミナーⅠ(分担), 社会共創学部
8. 前学期, プロジェクト基礎演習(分担), 社会共創学部
9. 前学期, プロジェクト実践演習(主担), 社会共創学部
10. 後学期, プロジェクト応用演習(分担), 社会共創学部
11. 前学期集中, 産業技術調査(分担), 社会共創学部

12. 後学期集中, 水産科学論Ⅳ (主担), 社会共創学部
13. 後学期, 海洋生産科学概論 (分担), 社会共創学部
14. 後学期, 生物学 (分担), 社会共創学部
15. 前学期集中, 社会共創演習Ⅰ (分担), 社会共創学部
16. 前学期集中, 社会共創演習Ⅱ (分担), 社会共創学部
17. 集中, インターンシップ実践 (分担), 社会共創学部
18. 集中, インターンシップ応用 (分担), 社会共創学部
19. 集中, 次世代水産イノベーション論 (分担), 社会共創学部
20. 前学期集中, 水圏生命科学Ⅰ (主担), 大学院農学研究科
21. 集中, 水圏生産学演習Ⅰ (分担), 大学院農学研究科
22. 集中, 水圏生産学実験Ⅰ (分担), 大学院農学研究科
23. 集中, 水圏生産学演習Ⅱ (分担), 大学院農学研究科
24. 集中, 水圏生産学実験Ⅱ (分担), 大学院農学研究科

斎藤大樹

【指導学生】

社会共創学部学生 (4 年生) : 2 名

大学院農学研究科・修士課程

(主指導) : 2 名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文 : 2 件

- ・紫外線照射によるゼブラフィッシュ胚の不妊化誘導
- ・多変量データを用いたカキの味に関する研究

修士論文 : 2 件

- ・データ駆動型探索による養殖マダイの呈味に関する研究
- ・ゼブラフィッシュ胞胚期における胚操作が個体発生に与える影響

【担当授業科目 (本学関係)】

1. 前学期, 海洋生産科学Ⅰ (分担), 社会共創学部
2. 前学期, 海洋生産科学Ⅱ (分担), 社会共創学部
3. 前学期, プロジェクト実践演習 (分担), 社会共創学部
4. 前学期, 水産生物環境学 (分担), 社会共創学部
5. 前学期, 産業イノベーションセミナー (分担), 社会共創学部
6. 前学期, フィールド実習 (主担), 社会共創学部
7. 後学期, 海洋生産科学概論 (分担), 社会共創学部
8. 後学期, 新入生セミナーB (分担), 社会共創学部
9. 後学期, 生物学 (分担), 社会共創学部
10. 後学期, プロジェクト応用演習 (分担), 社会共創学部
11. 集中, 次世代水産イノベーション論 (分担), 社会共創学部
12. 集中, 水圏生命科学Ⅰ (分担), 社会共創学部
13. 集中, 社会共創演習Ⅰ (分担), 社会共創学部
14. 集中, 産業技術調査 (分担), 社会共創学部

15. 集中，プロジェクト基礎演習（分担），社会共創学部
16. 集中，水産科学論Ⅰ（主担），社会共創学部
17. 通年，卒業研究（主担），社会共創学部
18. 通年，海洋生産科学セミナーⅠ（分担），社会共創学部
19. 前学期，水圏生産学特論（分担），大学院農学研究科
20. 前学期，養殖技術論（分担），大学院農学研究科
21. 後学期，水圏生命科学Ⅰ（分担），大学院農学研究科
22. 集中，水圏生産学演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科
23. 集中，水圏生産学実験Ⅰ（分担），大学院農学研究科
24. 集中，水圏生産学演習Ⅱ（分担），大学院農学研究科
25. 集中，水圏生産学実験Ⅱ（分担），大学院農学研究科

高木基裕

【指導学生】

農学部学生（4年生）：1名

（3年生）：2名

大学院農学研究科・修士課程

（主指導）：1名

大学院連合農学研究科・博士課程

（副指導）：2名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文：1件

・メジナの新規養殖魚としての可能性評価

【担当授業科目（本学関係）】

1. 通年，環境保全セミナー，農学部
2. 通年，水族保全学実習，農学部
3. 通年，卒業論文，農学部
4. 後学期，生物学（分担），農学部
5. 後学期，環境保全学概論（分担），農学部
6. 後学期，水産生物学，農学部・社会共創学部
7. 後学期，環境分子生物学（分担），農学部・社会共創学部
8. 後学期，環境保全学実験Ⅲ（分担），農学部
9. 前学期，水圏生産学特論（分担），大学院農学研究科
10. 通年，食料生産学特別演習，大学院農学研究科
11. 通年，食料生産学特別実験・実習，大学院農学研究科
12. 通年，水圏生産学演習Ⅰ，大学院農学研究科
13. 通年，水圏生産学実験Ⅰ，大学院農学研究科
14. 通年，水圏生産学演習Ⅱ，大学院農学研究科
15. 通年，水圏生産学実験Ⅱ，大学院農学研究科
16. 後学期，外書購読，大学院農学研究科
17. 後学期，水圏環境科学Ⅰ，大学院農学研究科

18. 前学期, 海洋生産科学概論 (分担), 社会共創学部
19. 前学期, 海洋生産科学 I, (分担), 社会共創学部
20. 前学期, 海洋生産科学 II, (分担), 社会共創学部

清水園子

【指導学生】

社会共創学部学生 (4 年生) : 2 名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文 : 2 件

- ・ 定量 PCR 法を用いたマダイ体内におけるエドワジエラ菌感染挙動の解析
- ・ 愛南町養殖海域における赤潮殺藻細菌 *Kordia* sp. の時空間分布に関する研究

【担当授業科目 (本学関係)】

1. 前期 養殖環境保全学 (分担) 社会共創学部
2. 前期 産業技術調査 (分担) 社会共創学部
3. 前期 プロジェクト実践演習 (分担) 社会共創学部
4. 前期 海洋生産科学 I (分担) 社会共創学部
5. 前期 海洋生産科学 II (分担) 社会共創学部
6. 前期 海洋生産科学セミナー I (分担) 社会共創学部
7. 前期 産業イノベーションセミナー II (分担) 社会共創学部
8. 後期 海洋生産科学概論 (分担) 社会共創学部
9. 後期 プロジェクト基礎演習 (分担) 社会共創学部
10. 後期 プロジェクト応用演習 (分担) 社会共創学部
11. 後期 産業イノベーションセミナー I (分担) 社会共創学部
12. 後期 水産科学論 II 社会共創学部
13. 通年 インターンシップ実践 (分担) 社会共創学部
14. 通年 インターンシップ応用 (分担) 社会共創学部
15. 通年 社会共創演習 I (分担) 社会共創学部
16. 通年 社会共創演習 II (分担) 社会共創学部
17. 後期 海洋生産科学セミナー II (分担) 社会共創学部
18. 集中 次世代水産イノベーション論 (分担), 社会共創学部
19. 前期 水圏生産学特論 (分担), 大学院農学研究科
20. 後期 水圏環境科学 II, 大学院農学研究科
21. 通年 水圏生産学演習 I 大学院農学研究科
22. 通年 水圏生産学実験 I 大学院農学研究科
23. 通年 水圏生産学演習 II 大学院農学研究科
24. 通年 水圏生産学実験 II 大学院農学研究科

若林良和

【担当授業科目 (本学関係)】

1. 前学期, 水産社会学, 社会共創学部
2. 前学期, 水産社会論, 農学部

3. 後学期, 水産社会学, 大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
4. 後学期, 水圏社会科学Ⅰ, 大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
5. 後学期, 水産社会論Ⅰ・Ⅱ, 大学院人文社会科学研究科 (環境・資源マネジメントコース)

【他大学等での講義】

1. 高知大学教育学部 (社会学概論・社会学, 集中)
2. 高知大学医学部 (家族社会学, 集中)
3. 松山大学人文学部・経済学部・経営学部・法学部 (文化人類学, 通年)
4. 松山看護専門学校 (文化人類学, 後学期)
5. JICA 青年研修「資源管理型漁業コース」 (日本のカツオ産業文化論, 集中)

竹ノ内徳人

【指導学生】

社会共創学部学生 (1 年生) : 6 名

(2 年生) : 6 名

大学院連合農学研究科・博士課程

(主指導) : 2 名

【担当授業科目 (本学関係)】

1. 前学期, こころと健康, 共通教育
2. 前学期, 専攻セミナーⅠ, 農学部
3. 前学期, 農学実習ⅠB, 農学部
4. 前学期, 基礎農業経営経済学 (分担) 2 年生, 農学部
5. 前学期, 水産社会科学演習 (分担), 農学部
6. 前学期, 海域社会経済論, 農学部
7. 前学期, 水産経済論, 社会共創学部
8. 前学期, 海洋生産科学Ⅰ
9. 前学期, 海洋生産科学Ⅱ
10. 後学期, 食品マーケティング論, 農学部
11. 後学期, 海洋生産科学概論 (分担), 社会共創学部
12. 後学期, 専攻セミナーⅡ, 農学部
13. 前学期, 食料生産経営学演習Ⅰ (分担), 大学院農学研究科
14. 前学期, 食料生産経営学Ⅰ (分担), 大学院農学研究科
15. 前学期, 食料生産経営学演習Ⅲ (分担), 大学院農学研究科
16. 前学期, 食料生産経営学特別演習Ⅰ (分担), 大学院農学研究科
17. 前学期, 食料生産経営学Ⅲ (分担), 大学院農学研究科
18. 前学期, 海洋生産科学研究 (分担), 大学院農学研究科
19. 後学期, 海域社会論, 大学院農学研究科
20. 後学期, 水圏社会科学, 大学院農学研究科
21. 後学期, 食料生産経営学演習Ⅱ (分担), 大学院農学研究科
22. 後学期, 食料生産経営学Ⅳ (分担), 大学院農学研究科
23. 通年, 食料生産経営学ケーススタディ (分担), 大学院農学研究科

【他大学等での講義】

1. 松山短期大学 「食品マーケティング論Ⅰ・Ⅱ」（通年）

7. 地域・社会連携活動(2023 年度)

(1) シンポジウム, 講座, 講演会, 展示等の開催(主催, 共催, 後援等)

1. 愛媛大学水産人材育成講座—応用編・水産業と地域振興—

【第1回講座】(5月20日)

- 宇和海水温情報システム You see U-sea の分析
(水温情報の読み方)

愛媛大学南予水産研究センター
顧問・客員教授 武岡英隆

- 地域活性化のための愛南町の水産ブランド戦略
(行政における地域活性化)

愛南町水産課 課長 濱 哲也

- 水産物輸出の背景(水産業の現状と課題:消費と価格,国際比較等)

愛媛大学南予水産研究センター 顧問・客員教授 金尾聡志

【第2回講座】(6月17日)

- 新技術を用いた水産養殖イノベーション(借腹生産など次世代育種システム)

愛媛大学南予水産研究センター 教授・センター長 松原孝博

- 水産資源を活用したブランディング(水産高校の取組とブランディング)

愛媛県立宇和島水産高等学校 教諭 鈴木康夫

- 水産物輸出の現状/動向と JETRO のサービス(輸出の現状・動向, JETRO)

独立行政法人日本貿易振興機構 農林水産食品部 商流構築課 課長 植杉紀子
愛媛貿易情報センター 所長 池田篤志

【第3回講座】(7月15日)

- 養殖魚の味と高品質化(品質評価手法の開発)

愛媛大学南予水産研究センター 准教授 斎藤大樹

- らしさ価値のでざいん(地域活性化のための「らしさ価値」)

ビンデザインオフィス有限公司 代表取締役 山内敏功

- 水産物輸出と HACCP(輸出における HACCP 対応)

独立行政法人日本貿易振興機構 (予定)

【第4回講座】(8月19日)

- 水産エコラベルは何(誰)のため?(今後のあり方,考え方)

日本水産資源保護協会 MEL 審査員 松岡学

- メディアを活用した地域ブランディング(地域ブランディング)

株式会社エス・ピー・シー 常務取締役 横山ぬい

- 水産業と IoT(デザイン思考で考えるシステム論)

愛媛大学大学院理工学研究科 教授 小林真也

【第5回講座】(9月16日)

- 海外から見た宇和海の水産養殖への期待(輸出の可能性)

愛媛大学南予水産研究センター 客員教授 西永豊光



海外模倣被害報告（商標登録の重要性）

元愛媛県産業技術研究所 所長 水産学博士 平岡芳信

- 宇和海の生産現場から（IoT の活用，スマート養殖業の実践）

大西水産有限会社 代表取締役 大西 光

- 水産業を核とした地域活性化の事例（活性化事例）

愛媛大学南予水産研究センター 准教授 竹ノ内徳人

2. 愛媛大学水産人材育成講座—基礎編・水産学概論—

【Ⅰ. 海と生物（基礎）】（10月21日）

- 生物生産環境： 海の流れと基礎生産，食物連鎖，基礎生産のメカニズム

愛媛大学南予水産研究センター 顧問・客員教授 武岡英隆

- 水産生物： 水産魚介類の分類および生理・生態

愛媛大学南予水産研究センター 教授 高木基裕

- 遺伝と育種： 水産資源の放流・遺伝的管理及び育種（Ⅱ. 水産増養殖 1）

愛媛大学南予水産研究センター 教授 高木基裕

【Ⅱ. 水産増養殖 1（概論）】（11月18日）

- 水域環境保全： 富栄養化，環境微生物，水域汚染（Ⅰ. 海と生物）

愛媛大学南予水産研究センター 准教授 清水園子

- 水産増殖： 水産増殖の実例

愛媛大学南予水産研究センター 教授・センター長 松原孝博

- 栄養と飼料： 養殖魚の栄養と飼料（Ⅱ. 水産増養殖 2）

愛媛大学南予水産研究センター 准教授 斎藤大樹

【Ⅲ. 水産増養殖 2（実践）】（12月16日）

- 漁業制度と水産法規： 漁業権，漁業許可，資源管理制度，水産法規（Ⅴ. 水産経済・水産法規）

愛媛大学南予水産研究センター 顧問・客員教授 金尾聡志

- 水産物の流通・販売： 水産物流通，商品開発，販売，消費，地域貢献（Ⅳ. 利用加工・消費）

愛媛大学南予水産研究センター 准教授 竹ノ内徳人

- 赤潮・魚病： 有害毒プランクトン，魚病

愛媛大学南予水産研究センター 准教授 清水園子

愛媛大学南予水産研究センター 助教 竹内久登

【Ⅳ. 利用加工・消費】（1月20日）

- 水産化学・生化学： 魚介類の生体成分

愛媛大学南予水産研究センター 准教授 斎藤大樹

- 水産物の利用・加工： 水産加工，冷凍・冷蔵，水産食品衛生

元愛媛県産業技術研究所 所長 水産学博士 平岡芳信

- 水産養殖： 養殖方式の分類および主要養殖種（Ⅱ. 水産増養殖 1）

愛媛大学南予水産研究センター 准教授 後藤理恵

【Ⅴ. 水産経済・水産法規】（2月17日）

- 養殖技術： 養殖生産技術（Ⅲ. 水産増養殖 2 実践）

愛媛大学南予水産研究センター 准教授 後藤理恵

- 漁業と資源管理： 漁船漁業と資源管理の基礎

愛媛大学南予水産研究センター 教授・センター長 松原孝博

○ 水産経済・経営：水産政策，水産経済，水産経営

愛媛大学南予水産研究センター 准教授 竹ノ内徳人

3. 第2回南予水産地域研究交流会

主催：南予水産研究センター地域連携推進室，

共催：愛南町，愛南漁業協同組合，久良漁業協同組合，愛媛県水産研究センター

開催日：2024年2月11日

会場：愛南町役場3階大会議室

（南予水産研究センター，愛南町，愛媛県水産研究センター，南予地域の5高校（南宇和高校，宇和島南中等教育学校，宇和島東高校，宇和島水産高校，長浜高校）が参加するポスター形式の研究発表会（参加約140名））

発表演題

<高校>

木酢液での魚病治療

今野 友瑛（長浜高校）

シオミズツボムシの遊泳速度は何によって変わるのか

眞鍋 春磨（長浜高校）

地域の廃棄物を利用した浄化装置とその有効性

近平 まるこ・清水 遥・高橋 里玖・増田 智仁・柳川 遼太・吉本 賢生

（宇和島東高校）

目指せ！貝類による辰野川の水質改善

小川 健太・久能 大河・土居 陽人・井関 奏志・宮田 彩花（宇和島東高校）

地図を用いた固有種トキワバイカツツジの調査と保全

田村 優芽・高平 こころ・高田 悠生・稲田 美優・粉川 実姫・二神 直希・

小西 立桜（宇和島東高校）

F（フィッシュ）F（ファーム）プロジェクト

稲田 若菜・浅野 希央・山崎 莉玖（南宇和高校）

河内晩柑の脳機能改善効果

三好 千華子（南宇和高校）

赤潮防除に向けた殺藻細菌の探索

中道 壮太・岡下 颯馬・和田 隼治・下茅 由虹（南宇和高校）

フィッシュガールによるコロナ禍における県産水産物の販売促進活動の効果について

山下羅衣・出水花音・水野陽菜（宇和島水産高校）

～若者の流出阻止！若者に優しい街づくりを目指して～ 宇和島初？！となる学割の実施

畠田 翔・早川 朱莉・早川 莉玖・前田 翔誠・渡邊 健豊・服部 純也（宇和島水産高校）

△宇和海からの危険信号△ 水高生による海洋ゴミ削減への取り組み

梶原 勸心・末光 優悟・中島 慶斗・三好 拓斗・三好 ひなた・服部 純也（宇和島水産高校）

<大学・大学院>

アオリイカ (*Sepioteuthis lessoniana*) の飼育に関する研究

松下 知里 (愛媛大社会共創学部)

魚類不妊化系統作出に向けた基礎的研究

清家 滉生 (愛媛大社会共創学部)

紫外線照射によるゼブラフィッシュ胚の不妊化誘導

高橋 拓未 (愛媛大社会共創学部)

愛南町養殖海域における赤潮殺藻細菌 *Kordia* sp. の時空間分布に関する研究

武智 大輝 (愛媛大社会共創学部)

多変量データを用いたマガキの味に関する研究

津田 将史 (愛媛大社会共創学部)

定量 PCR 法を用いたマダイ体内におけるエドワジエラ菌感染挙動の解析

三島 壮太 (愛媛大社会共創学部)

マダイ借腹生産に向けた技術開発

宮本 尚宜 (愛媛大社会共創学部)

メジナの新規養殖魚としての可能性評価

大西 基文 (愛媛大農学部)

マダイ種苗における行動の多様性評価

藤原 成晴 (愛媛大大学院農学研究科)

ゼブラフィッシュ胚発生期における胚操作が個体発生に与える影響

赤坂 龍矢 (愛媛大大学院農学研究科)

画像情報を用いたスマの生理状態把握の試み

板橋 克弥 (愛媛大大学院農学研究科)

養殖マダイの味に関する研究

大塚 淳希 (愛媛大大学院農学研究科)

<一般>

海業“UMIGYO”の推進 (愛南町)

清水貴光, 広瀬琢磨, 清水陽介, 吉原勇作, 本田美紀, 賀屋啓太, 中村一喜,

浜辺隆博 (愛南町水産課海業推進室)

生餌及び配合飼料を用いたスマ飼育成績の比較

石川 豪大・水野 かおり・曾根 謙一・新野 洋平 (愛媛県水産研究センター)

愛南町の生物多様性Ⅰ 愛南町の鳥類の多様性とその保全

橋越 清一 (愛南探検隊・愛媛大学教育学部科学教育センター)



第2回南予水産地域研究交流会

交流会後の施設見学（西浦ステーション）

3. 第14回愛南町水産フォーラム「未来に向け水産業を守るために～海から森を考える」，1月20日（共催）
4. 南水研卒論・修論公开发表会，試験魚介類の供養祭および愛南町からの卒業・修了記念品贈呈，2月23日

P1020531

3851



卒論・修論発表会



愛南町からの記念品贈呈



(2) 地域特別研究員との共同研究

研 究 題 目	地域特別研究員		受入教員	
新規養殖品種の開発	清水	陽介	松原	孝博
スマ養殖		田中 俊也	松原	孝博
水産物養殖技術の開発		大西 光	松原	孝博
魚類養殖現場で発生する病気について		吉原 勇作	清水	園子
魚類養殖現場で発生する病気について		垣本 一真	清水	園子
リアルタイム PCR によるアコヤガイビルナウィルス 感染状況の調査		賀屋 啓太	清水	園子
四国南西海域における植物プランクトン相の把握		日野出賢二郎	清水	園子
アコヤガイ種苗生産		廣瀬 琢磨	高木	基裕
優良アコヤガイ作出に係る技術開発		濱田 茂樹	高木	基裕
優良アコヤガイ作出に係る技術開発		山本 次郎	高木	基裕
漁村における地域文化の研究		藤本 吉信	若林	良和
学校教育の視点から考える「ぎょしょく教育」と 地域理解教育の関係性	猪野啓士郎	若林	良和	
町内水産物の販売促進およびブランド化の研究	濱	哲也	竹ノ内徳人	
DSC4515			DSC4998	

(3) 地域連携教育

1. 愛南町ぎょしょく教育授業（小学生対象）

- ・ちりめんモンスターを探せ、（松原主担当，社会共創学部 3 回生，4 回生，農学研究科修士学生も指導補助として交替で参加）

6 月 6 日 一本松小学校 1 年 20 名

6 月 14 日 船越小学校 1 年 2 名

7 月 14 日 城辺小学校 特別支援 2 名

10 月 13 日 平城小学校 1 年 21 名 保護者参加

10 月 16 日 柏小学校 1,2 年 12 名

10 月 26 日 城辺小学校 1 年 23 名 保護者参加

12 月 7 日 柏保育所 11 (3-6 歳)

- ・9 月 28 日 一本松小学校 うみらいく，スマ生簀見学 5 年 21 名

2. 愛南町職場体験授業（ジョブチャレンジ）（中学生対象）

- ・6 月 26 日～6 月 30 日 御荘中学校 1 名を受け入れ教員 4 名が交代で指導

3. 南宇和高校 総合的な探究の時間「地域づくり探究Ⅰ・Ⅱ」

- ・5 月 12 日（斎藤）南宇和高校にて講義 水産における課題の共有

- ・6月23日（斎藤，竹内）南宇和高校にて 研究課題の検討 7名
 - ・7月13日（清水，竹内）船越ステーションにて 研究課題の実験準備 7名
 - ・8月23日（清水，竹内）船越ステーションにて 研究課題の実験実施 7名
 - ・9月8日（清水，竹内）船越ステーションにて 研究課題の実験実施 7名
 - ・9月15日（清水，竹内）船越ステーションにて 研究課題の実験実施 7名
 - ・10月27日（清水，竹内）船越ステーションにて 研究課題の実験結果解析 7名
 - ・12月24日（清水，竹内）船越ステーションにて 研究課題の実験結果取りまとめ 7名
4. そのほかの高校生指導等
- ・7月29日（後藤，斎藤）宇和島水産高校 うみらいく見学及び講義 5名
 - ・10月20日（後藤，斎藤）長浜高校 模擬講義，自由討論会 20名
 - ・10月20日（清水）北宇和高校 社会共創学部説明会
 - ・7月7日，10月20日，11月17日，12月8日，2月2日（高木）宇和島南高校 課題研究指導
 - ・10月21日，10月22日，10月28日，10月29日，11月12日（清水，竹内）愛媛大学グローバルサイエンスキャンパス（eGS; 宇和島東高校生徒1名）船越ステーションにおいて実験，結果まとめ

(4) 一般向け講演等

後藤理恵・清水園子

1. 後藤理恵，清水園子「地域協働による水産研究の推進」第14回愛媛大学ホームカミングデイ，愛媛大学南加記念ホール，松山市，2023年11月11日。

竹ノ内徳人

1. 竹ノ内徳人．海からの恵みが私たちの食卓に届くまで：第11回水産物はどうやって食卓に届いている？．子どものためのSDGs教室オンラインセミナー．株式会社SPC．松山市．2024年2月25日．
2. 竹ノ内徳人．海からの恵みが私たちの食卓に届くまで：第12回水産業はどうなっている？．子どものためのSDGs教室オンラインセミナー．株式会社SPC．松山市．2024年3月24日．

小林真也

1. 漁業者の夢を叶えた海況情報サービス You see U-Sea，地域創生カレッジ（一般財団法人地域活性化機構受託内閣府事業），No.205，2023年度（<https://chihousei-college.jp/e-learning/expert/synthesis/introduction/205.html>）

(5) 一般向け雑誌記事等

若林良和

1. 若林良和：「秋の魚」を身近に感じて，おいしく食べましょう！．たのしくたべようニュース第468号（少年写真新聞）：1．2023年9月．
2. 若林良和：特別連載 “大学人国記” 第49回 愛媛大学の巻① ◆若林良和理事・副学長（社会連携・人事マネジメント担当）◆．文教ニュース第2773号：101－102．2023年10月．

3. 若林良和：「カツオの狩人」の世界に迫る船上めし。月刊みんぱく 84(4)：20。2024 年 3 月。

(6) ボランティア活動，地域行事への参加等

1. 第 10 回愛南町いやしの郷トライアスロン大会ボランティア，教職員学生等 25 名，2023 年 6 月 2-3 日。
2. 愛南マラニック ボランティア参加，教職員学生等 19 名，2023 年 8 月 27 日。
3. 「ライオンズ奉仕デー」片の浜清掃活動，教職員学生等 9 名，2023 年 9 月 30 日。
4. 愛南町御荘湾ごみ回収ボランティア，愛南町クリーンオーシャン事業（海洋プラスチックごみ対策プロジェクト），教職員 20 名，2023 年 10 月 14-15 日。
5. 秋祭り，学生 10 名，2023 年 11 月 3 日。



愛南町御荘湾ごみ回収ボランティア

8. 新聞記事・テレビ出演等(2023 年度)

高木基裕

1. 愛媛新聞, 2023 年 8 月 16 日, 「岩松川ウナギ トップ級」
2. 愛媛新聞, 2024 年 1 月 14 日, 「真珠養殖で温暖化防止 愛南の産学官事業カーボンクレジットいかだの海藻寄与全国初」

清水園子

1. 日刊工業新聞, 2023 年 9 月 18 日 For Future 先端技術「予兆を捕捉, 養殖守る」

日向博文

1. 山陽新聞 1 面 2024 年 2 月 24 日, 海ごみゼロへ意識高揚.
2. 山陽新聞 特集 2024 年 3 月 9 日, 海ごみ・プラごみ削減フォーラム「海岸回収で微細化を防ぐ」
3. NHK スペシャル 2023 年 6 月 11 日, ヒューマンエイジ 第 1 集 人新世 地球を飲み込む欲望.
4. NHK ETV 特集 2023 年 11 月 25 日, 人新世 ある村にて.
5. NHK 愛媛 ひめポン! 2024 年 1 月 16 日, 愛媛県愛南町 プラスチックが海に“とける”? 海洋ごみ問題解決へ最新研究 漁業の漂着ごみ課題で.
6. NHK NEWSWEB 2024 年 2 月 22 日, 丈夫だけど海に“とける”プラスチックって? 海で自然に分解されるという環境に優しいプラスチックとは

9. センター視察・来訪者(2023年度)

		人
2023年4月4日	愛南町役場水産課	4
2023年4月5日	愛媛県立宇和島水産高等学校	2
2023年4月11日	株式会社西村商会	2
2023年4月13日	一般財団法人化学物質評価研究機構	1
	東京大学	2
	愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻	1
	愛媛大学工学部工学科	3
	愛媛大学沿岸環境科学研究センター	1
2023年5月11日	一般財団法人化学物質評価研究機構	1
	帝人株式会社	1
	愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻	1
	愛媛大学工学部工学科	3
2023年5月12日	辻水産株式会社	1
2023年5月23日	愛南町役場商工観光課	2
2023年5月30日	株式会社リブル	3
2023年6月8日	愛媛県立宇和島水産高等学校	7
2023年6月15日	ウシオ電機株式会社	1
	総務省四国総合通信局	2
	株式会社ハートネットワーク	2
2023年6月22日	愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻	1
	株式会社ブリヂストン	3
	九州大学	2
	東京大学	4
	三菱ケミカル株式会社	1
	一般財団法人化学物質評価研究機構	3
	愛媛大学沿岸環境科学研究センター	1
	愛媛大学工学部工学科	3
2023年6月26日	愛南町立御荘中学校	2
2023年6月27日	愛南町立御荘中学校	1
2023年6月28日	総務省	4
	愛南町立御荘中学校	1
2023年6月30日	愛南町立御荘中学校	2
2023年7月4日	中央会計株式会社松山オフィス	3
2023年7月5日	愛媛県農林水産研所水産研究センター	2
2023年7月6日	東京大学	5
	株式会社ブリヂストン	3
	株式会社クレハ	2
	山形大学	2
	九州大学	1

	一般財団法人化学物質評価研究機構	2
	愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻	1
	愛媛大学工学部工学科	3
2023 年 7 月 10 日	株式会社愛媛 CATV 愛南局	1
2023 年 7 月 11 日	松田医薬品株式会社	1
2023 年 7 月 20 日	愛媛大学施設基盤部	6
2023 年 7 月 24 日	愛南町役場商工観光課	2
2023 年 7 月 25 日	マルハニチロ株式会社	3
2023 年 7 月 27 日	愛媛大学 SDGs 推進室	2
2023 年 7 月 28 日	愛媛大学 SDGs 推進室	2
2023 年 8 月 3 日	一般財団法人化学物質評価研究機構	1
	愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻	1
	愛媛大学工学部工学科	3
2023 年 8 月 8 日	愛媛県立新居浜工業高等学校	8
2023 年 8 月 23 日	フィードワン株式会社	2
	愛媛大学社会連携推進機構	3
	奥野製薬工業株式会社	2
2023 年 8 月 24 日	ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校	1
2023 年 8 月 31 日	愛媛大学総務部	3
2023 年 9 月 4 日～5 日	内閣府	2
	経済産業省	1
	NEDO	2
	東京工業大学	1
	福岡大学	1
	東京大学	6
	三菱ケミカル株式会社	1
	株式会社クレハ	1
	株式会社株式会社ブリヂストン	2
	一般財団法人化学物質評価研究機構	1
	愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻	5
2023 年 9 月 6 日	愛媛大学工学部数値シミュレーション研究室	2
2023 年 9 月 13 日	ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校	1
2023 年 9 月 16 日～17 日	ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校	32
2023 年 9 月 27 日	国際協力機構（JICA）	10
	高知大学	2
2023 年 9 月 29 日	愛南町立一本松小学校	22
2023 年 10 月 2 日	愛南町役場商工観光課	2
2023 年 10 月 18 日	愛媛大学工学部工学科	3
2023 年 10 月 25 日	愛媛県水産研究センター	1
2023 年 10 月 26 日	株式会社荏原製作所 次世代事業開発推進部	2
	愛媛県水産研究センター	1

2023 年 10 月 31 日	株式会社ゆうちょ銀行四国エリア本部	2
2023 年 11 月 14 日	株式会社ゼンショーホールディングス	3
2023 年 11 月 17 日	愛媛大学社会連携支援部	5
2023 年 11 月 22 日	株式会社極洋	3
2023 年 12 月 7 日	NHK	3
2023 年 12 月 8 日	一般財団法人化学物質評価研究機構	3
	愛媛大学沿岸環境科学研究センター	1
	東京大学	1
2023 年 12 月 14 日	すくも湾漁業協同組合	1
	宿毛市産業振興課	1
	宿毛市議会議員	1
	バイオ科学販売株式会社	1
2024 年 1 月 22 日	札幌学院大学	3
2024 年 2 月 11 日	愛媛県立宇和島水産高等学校	11
	愛媛県立長浜高等学校	7
	株式会社ゆうちょ銀行四国エリア本部	2
	地域おこし協力隊	1
	株式会社東京久栄	2
2024 年 3 月 7 日	高知大学次世代地域創造センター	2
2024 年 3 月 11 日	愛媛大学社会連携推進機構	1
	愛媛大学社会連携支援部	1
	愛南町役場水産課	1
	愛南町町長	1
	愛南漁業協同組合	1
	久良漁業協同組合	1
	大西水産有限会社	1
2024 年 3 月 14 日	東洋大学海洋学部	2

(総訪問者数 296 人)

愛媛大学南予水産研究センター規則

平成 19 年 10 月 10 日

規則第 152 号

(趣 旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第 30 条第 2 項の規定に基づき、愛媛県南宇和郡愛南町に置く愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第 2 条 センターは、生命科学、環境科学及び社会科学による学際的な水産学研究の拠点を形成し、先端科学による漁場調査、水産養殖技術開発、水産業振興等について研究及び教育することにより、地域社会からの水産学への要望に応え、地域及び日本の水産業に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第 3 条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 生命科学研究部門
- (2) 環境科学研究部門
- (3) 社会科学研究部門

2 前条の目的を達成するため、必要に応じて、愛媛大学農学部センター分室を置くことができる。

(組 織)

第 4 条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(管理機関)

第 5 条 センターの管理運営に関する重要な事項は、愛媛大学社会連携推進機構社会連携推進会議（以下「社会連携推進会議」という。）において審議する。

(運営委員会)

第 6 条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第 7 条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任教授又は特命教授のうちから社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第 8 条 副センター長候補者は、本学の専任の教授のうちから、センター長が当該教授の所属する学部等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された副センター

長の任期は、前任者の残任期間とする。

（専任教員）

第9条 専任教員は、社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

（兼任教員）

第10条 兼任教員は、本学の専任の教員のうちから、当該教員の所属する学部等の長と協議の上、センター長が学長に推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。

（職 務）

第11条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長が不在又は事故あるときは、その職務を代行する。

3 専任教員は、センター長から指示されたセンターの業務を遂行する。

4 兼任教員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事する。

5 センター職員は、センターの業務に従事する。

（顧 問）

第12条 センターに、顧問を置くことができる。

2 顧問は、センター長の推薦に基づき、社会連携推進機構長が委嘱する。

3 顧問の任期は1年以内とし、再任を妨げない。

（客員教授等）

第13条 センターに、客員教授又は客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、国立大学法人愛媛大学客員教授等称号付与規程の定めるところによる。

（研究員）

第14条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。

3 研究員は、本学の専任教員のうちからセンターの専任教員が推薦し、運営委員会の議を経て、学長が任命する。

4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

（客員研究員）

第15条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

（地域特別研究員）

第16条 センターに、地域特別研究員を置くことができる。

2 地域特別研究員に関し必要な事項は、別に定める。

（地域連携推進室）

第17条 センターに、地域連携推進室を置く。

2 地域連携推進室に関し必要な事項は、別に定める。

（事 務）

第18条 センターに関する事務は、社会連携支援部社会連携課及び農学部事務課において処理する。

（雑 則）

第19条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年7月25日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年9月11日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年6月11日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

愛媛大学南予水産研究センター運営委員会規程

平成 19 年 10 月 10 日

規則第 153 号

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、愛媛大学南予水産研究センター規則第 6 条第 2 項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組 織)

第 3 条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) 社会連携支援部長
- (6) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第 6 号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

(委員長)

第 4 条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議 事)

第 5 条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第 7 条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事 務)

第 8 条 運営委員会及び専門委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑 則)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

運営委員名簿

番号	区 分	所 属 部 局	職 名	氏 名
1	1号委員	南予水産研究センター	センター長	松 原 孝 博
2	2号委員	南予水産研究センター	副センター長	高 木 基 裕
3	3号委員	南予水産研究センター	教授	竹ノ内 徳 人
4	3号委員	南予水産研究センター	教授	後 藤 理 恵
5	3号委員	南予水産研究センター	准教授	清 水 園 子
6	3号委員	南予水産研究センター	准教授	斎 藤 大 樹
7	3号委員	南予水産研究センター	助教	竹 内 久 登
8	4号委員	社会連携推進機構	機構長	若 林 良 和
9	4号委員	社会共創学部	教授	高 橋 学
10	4号委員	大学院理工学研究科	教授	小 林 真 也
11	4号委員	大学院理工学研究科	教授	日 向 博 文
12	4号委員	大学院医学系研究科	教授	今 村 健 志
13	4号委員	大学院農学研究科	教授	菅 原 卓 也
14	4号委員	大学院農学研究科	教授	松 枝 直 人
15	4号委員	先端研究・学術推進機構 (沿岸環境科学研究センター)	教授	森 本 昭 彦
16	5号委員	社会連携支援部	部長	藤 田 英 之

(2024 年 3 月 31 日現在)

愛媛大学南予水産研究センター参与会要項

(設置)

第1条 愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）に、センターの事業及び運営に関して助言等を得るため、愛媛大学南予水産研究センター参与会（以下「参与会」という。）を置く。

(組織)

第2条 参与会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 社会連携推進機構長
- (2) 大学院農学研究科長
- (3) 社会共創学部長
- (4) 南予水産研究センター顧問
- (5) 南予水産研究センター長及び副センター長
- (6) 南予水産研究センター運営委員会委員のうちから社会連携推進機構長が指名する者 若干人
- (7) 社会連携推進機構長が委嘱する学外有識者

2 前項第7号の委員の任期は、2年を超えない範囲で社会連携推進機構長が委嘱の都度定めるものとし、再任を妨げない。

(任務)

第3条 参与会は、センターの事業及び運営に関して、次の各号に掲げる事項を行う。

- (1) 地域行政、漁業協同組合等との連携及び地域社会のニーズの発掘についての支援
- (2) センターにおける研究、教育等への助言・支援
- (3) その他センターの事業及び運営に関する事項

(会議)

第4条 参与会に、座長を置き、社会連携推進機構長をもって充てる。

- 2 座長は、必要に応じて参与会を招集する。
- 3 座長に事故があるときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
- 4 座長は、議題に応じ、関係する本学の職員を参与会に出席させるものとする。

(事務)

第5条 参与会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第6条 この要項に定めるもののほか、参与会の運営に関し必要な事項は、社会連携推進機構長が別に定める。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成26年1月27日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年10月29日から施行する。

附 則

この要項は，平成３０年４月１日から施行する。

愛媛大学南予水産研究センター参与会委員名簿

氏 名		所 属 ・ 職 名
愛媛大学	若 林 良 和	社会連携推進機構長
	治 多 伸 介	大学院農学研究科長
	徐 祝 旗	社会共創学部長
	武 岡 英 隆	南予水産研究センター顧問
	金 尾 聡 志	南予水産研究センター顧問
	松 原 孝 博	南予水産研究センター長
	高 木 基 裕	南予水産研究センター副センター長
	竹ノ内 徳 人	南予水産研究センター運営委員会委員 教授
	後 藤 理 恵	南予水産研究センター運営委員会委員 教授
	清 水 園 子	南予水産研究センター運営委員会委員 准教授
	斎 藤 大 樹	南予水産研究センター運営委員会委員 准教授
	竹 内 久 登	南予水産研究センター運営委員会委員 助教
	高 橋 学	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	小 林 真 也	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	日 向 博 文	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	今 村 健 志	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	菅 原 卓 也	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	松 枝 直 人	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	森 本 昭 彦	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	藤 田 英 之	南予水産研究センター運営委員会委員 部長
学外有識者	岡 原 文 彰	宇和島市長
	清 水 雅 文	愛南町長
	渡 邊 昭 生	愛媛県農林水産研究所水産研究センター長
	平 井 義 則	愛媛県漁業協同組合 代表理事組合長
	立 花 弘 樹	愛南漁業協同組合 代表理事組合長
	竹 田 英 則	久良漁業協同組合 代表理事組合長
	佐々木 史 仁	愛南町議会 議長
	大 西 光	愛南漁業協同組合 魚類養殖協議会長
	仲 川 松 廣	愛南漁業協同組合 真珠貝養殖協議会長
	濱 田 克 人	久良漁業協同組合 魚類養殖協議会長
	松 下 定 一	愛媛県漁業協同組合吉田支所 運営委員長

	平 井 義 則	愛媛県漁業協同組合宇和島支所 支所運営委員長
	松 本 嘉 晃	愛媛県認定漁業士協同組合 理事長

(2024 年 3 月 31 日現在)

愛媛大学南予水産研究センター地域特別研究員要項

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学南予水産研究センター規則第16条第2項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）に受け入れる地域特別研究員の取扱いに関し、必要な事項を定める。

(受入手続)

第2条 県・市町村の行政機関及び水産業を行っている機関（漁業協同組合等）（以下「派遣機関」という。）の長が地域特別研究員を派遣しようとするときは、センターが別に定める申込書に、派遣機関の長の推薦書及び本人の履歴書を添え、愛媛大学南予水産研究センター長（以下「センター長」という。）に申し込まなければならない。

(受入承認)

第3条 センター長は、愛媛大学南予水産研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、地域特別研究員の受入れを決定し、派遣機関の長へ通知するものとする。

(研究方法)

第4条 地域特別研究員は、センターの専任教員及び兼任教員の指導の下で、センターの研究活動に従事する。

2 地域特別研究員の研究場所は、センター長が確保するものとする。

(研究期間)

第5条 地域特別研究員の研究期間は、派遣機関との協議及び運営委員会の議に基づき、センター長が決定する。

(報酬等)

第6条 地域特別研究員に対する研究期間中の報酬その他人件費等は、本学からは支給しない。

2 地域特別研究員に対する調査研究等に係る経費（調査研究旅費を含む。）については、派遣機関との協議及び運営委員会の議に基づき、経費の額を決定する。

(研究料)

第7条 地域特別研究員に係る研究料は、徴収しない。

(研究証明書の交付)

第8条 地域特別研究員が、その研究事項について証明を願い出たときは、センター長は研究証明書を交付する。

(弁償等の義務)

第9条 地域特別研究員は、研究期間中において故意又は重大な過失によりセンターの設備、機械、器具等を亡失又は損傷したときは、速やかに復元し、又はその損傷を弁償しなければならない。

(遵守事項)

第10条 地域特別研究員は、この要項に定めるもののほか、センター長の指示に従わなければならない。

(雑則)

第11条 この要項に定めるもののほか、地域特別研究員に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は，平成３０年４月１日から施行する。

愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室設置要項

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）規則第17条第2項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室（以下「推進室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 推進室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地域からのセンターへの要請に関すること。
- (2) センターによる地域連携活動の企画、実施に関すること。
- (3) その他、センターの地域連携活動に関すること。

(組織)

第3条 推進室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 室員
 - ア センターの専任教員
 - イ 地域のステークホルダー 若干人

2 室長は、センター長が指名する専任教員をもって充てる。

3 第1項第2号イの室員は、センター長がその者の所属する機関等の長の同意を得て委嘱する。

(任期)

4 室長及び室員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、室長及び室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(業務)

第4条 室長は、推進室に関する業務を掌理する。

2 室員は、推進室の業務を処理する。

(雑則)

第5条 この要項に定めるもののほか、推進室に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

1 この要項は、平成30年4月1日から施行する。

2 愛媛大学南予水産研究センター地域連携・研究支援室設置要項（平成20年4月1日制定）は廃止する。

愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室室員名簿

氏 名		所 属 ・ 職 名
愛媛大学	高 木 基 裕	南予水産研究センター 教授 (地域連携推進室長)
	松 原 孝 博	南予水産研究センター 教授
	竹ノ内 徳 人	南予水産研究センター 教授
	後 藤 理 恵	南予水産研究センター 教授
	清 水 園 子	南予水産研究センター 准教授
	斎 藤 大 樹	南予水産研究センター 准教授
	竹 内 久 登	南予水産研究センター 助教
学外有識者	岡 田 孝 洋	愛南漁業協同組合 販売促進部長
	山 岡 惣一郎	久良漁業協同組合 職員
	和 田 敬 行	愛媛県立宇和島南中等教育学校 教諭
	鈴 木 康 夫	愛媛県立宇和島水産高等学校 教諭
	二 宮 忠 士	愛媛県立南宇和高等学校 教頭
	大 森 安 洋	愛南町商工観光課 主幹
	清 水 陽 介	愛南町水産課 係長

(2024 年 4 月 1 日現在)

愛媛大学南予水産研究センター年報編集委員会

委員長	松原 孝博	南予水産研究センター・センター長
副委員長	高木 基裕	南予水産研究センター・副センター長
	筒井 隆	社会連携支援部社会連携課副課長

愛媛大学南予水産研究センター年報 第 16 号 (2023 年度版)

発 行 : 2024 年 11 月

発行者 : 愛媛大学南予水産研究センター 船越ステーション

〒798-4292 愛媛県南宇和郡愛南町船越 1289-1

TEL 0895-82-1022 FAX 0895-82-1026

愛媛大学南予水産研究センター 西浦ステーション

〒798-4206 愛媛県南宇和郡愛南町内泊 25

TEL 0895-73-7112 FAX 0895-73-7113

愛媛大学南予水産研究センター 松山ステーション (イノベーション創出院)

〒790-8577 愛媛県松山市文京町 3

TEL 089-927-8145 FAX 089-927-8820

URL <http://ccr.ehime-u.ac.jp/cnf/>

表紙写真

宇和島市遊子，津の浦の養殖漁場（撮影者：武岡英隆）